

布設開始から約50年が経過する管や、本管調査を実施し損傷が確認された管を、長寿命化対策として下水道管を更新する**管更生工事**と、管を入れ替える改築の**布設替え工事**を行っています。

管更生工法

既設管に破損、クラック、腐食等が発生し、対荷能力、耐久性の低下及び流下能力が保持できなくなった場合、**既設管内面に管を構築して既設管の更生及び流下能力の確保**を行います。マンホール使用により施工可能であるため、**道路を開削せず**に施工します。

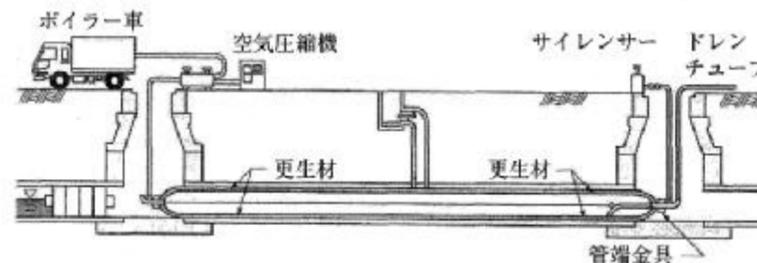
布設替工法

既設管のたるみ等が大きく、破損やクラック状態により流下能力が保持できなくなった場合で、周辺交通等への影響が少ない場合に**道路開削**により管の入替えを行います。

管更生工法（小口径）

管径 800mm 未満の既設管を道路開削しないで、マンホールから材料を引き込み、管を構築する費用

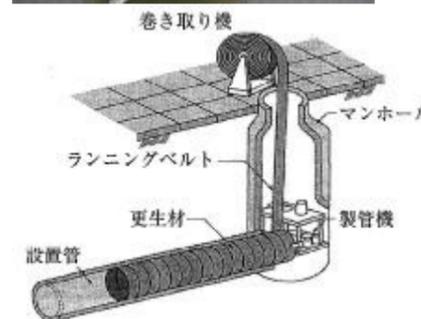
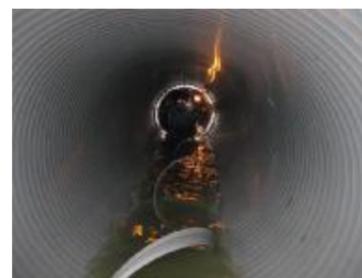
1 m当たり整備延長 約 **10** 万円



管更生工法（大口径）

管径 800mm 以上の既設管を道路開削しないで、マンホールから材料を引き込み、管を構築する費用

1 m当たり整備延長 約 **55** 万円
(**SPR** 工法)



(例)

内径 **250~350** ミリのコンクリート管から塩ビ管に入替える

1 m当たり整備延長 約 **15** 万円



今後、耐用年数50年が経過する管が増えていく中で、管の布設替えよりも安価な管更生を活用し、費用削減に努め長寿命化対策を計画的に実施していきます。